

都情研の活動のスタートに当たって

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長

文京区立小日向台町小学校 校長

小川 深 雪

平成二十三年四月二十六日に、総会が開催され、いよいよ今年度の都情研の活動が始まりました。

今年度は七月に全国情緒障害教育研究協議会東京大会も開催されます。本大会は、大会実行委員長の杉並区立大宮小学校 曾我部和広校長先生を中心とした体制のもと、自閉症(発達障害)への生涯にわたる支援について東京から全国に発信できるよい機会と捉え、会員の皆様の英知を集めていきたいと考えます。大会成功のためにも皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

総会でご挨拶をいただきました、自閉症スペクトラム学会副理事長 野村東助様、NPO法人東京都自閉症協会理事長 今井忠様、東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事 市川裕二様、全国特別支援学級設置学校長協会

会長河本眞一様、大田区教育委員会 教育指導課指導主事 小林繁様、全国情緒障害教育研究協議会会長 金井尚志様に心より感謝申し上げます。

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課からの第三次実施計画の資料では、『すべての学校でつながりを大切にし、自立と社会参加を目指す特別支援教育を推進するため、教育内容・方法の一層の充実をはかる事業を区市町村教育委員会と連携して積極的に展開します。』とし、次のような内容が記載されています。

一 教育内容充実のための事業として、(一) 特別支援学校における教育内容の充実 ● 個別の教育支援計画の充実等、(二) 小・中学校における特別支援教育の充実 ● 「自閉症・情緒障害学級」の指導内容の

研究・開発事業 ● 発達障害の児童・生徒の指導方法の研究・開発事業の二点をあげ、国分寺市(第四小学校) 多摩市(諏訪小学校) 葛飾区(高砂小学校) 立川市(第七小学校)の四校においてモデル事業校としての取組みが行われます。(三) 高等学校における特別支援教育の充実 ● 高等学校の特別支援教育コーディネーター育成事業、(四) 特別支援教育の理解教育充実事業の推進 ● 副都心制度の推進があげられています。

二 体制整備のための事業として、

(一) 文部科学省指定事業の推進 ● 特別支援教育総合推進事業【推進地域】葛飾区・青梅市・日野市・東村山市・東大和市・清瀬市・武蔵村山市・多摩市・あきる野市・日の出町の一〇区市町 (二) 特別支援教育を担う人材育成 (三) 研修、理解啓発があげられ、とりわけ教育内容・方法の充実が求められています。

本研究会においても、本年度の活動として【対策・調査研究部】では ● 東京都教育委員会との意見交換会(昨年は①情緒障害教育の専門性を高める研修機会の充実を②中学校情緒障害等学級に關した区市町村の方針や実情への支援を③情緒障害教育の専門性が活かされるような人的配置及び体制作りを④情

緒障害等通級指導学級の入退級について理解を、等についてお願いしました。● 都難聴言語障害研究協議会・都弱視教育研究会との合同による三者連絡協議会の開催 ● 教育課題研究協議会 ● 対策・調査研究部担任研修会【広報部】 ● 機関紙「みちびき」の発行【設置校部】 ● 分科会(①コミュニケーション指導分科会②運動・音楽等の指導分科会③発達障害分科会④思春期対応分科会⑤ベテラン担任によるレクチャー・通級入門分科会) ● 夏季集中研修会【特別研究部】 ● 講師を招いての夏季研修会(4回)が計画されています。

各研究部の活動が活発に行われ、ぜひ、日々の実践に活かしていただきたいと思えます。そして、発達障害を含む障害のある子ども一人一人のニーズに応じた一貫した支援を行うために、関係者機関の連携により、学校現場における特別支援教育の体制整備が進められ、教員の特別支援教育にかかわる専門性の向上等により、特別支援教育の推進が図られることを願っています。今後とも国等の動向も見つめながら、目の前の子どもたちのよりよい支援、在籍学級と連携した東京都の「通級指導」のあり方について様々な実践を通して探っていききたいと考えます。

身体の動きと小集団指導について 〜感覚と運動の協応&統合から〜

療育塾ドリームタイム 作業療法士 木村 順先生

「ニーズ」という言葉があります。育ちや発達に困難を抱えている児童にとって、それは時に「火種」として見えてくる場合があります。「問題となる行動や事象の背景に、その児童の発達ニーズあり」なのですが、この火種……その背景にある「ニーズ」を的確に把握しておかないと「火に油を注ぐ」ことをしてしまいかねません。本日は、子どもたちのニーズを、どの様に読み取っていくか理解していくか、というところからお話を始めてみたいと思います。

一. 現代の子どもたちが抱える

身体の問題

子どもたちに起こっている火種の一つとして身体に関する問題があります。かつては幼児の段階で身につけていた運動能力を、今は小学生でも獲得できていない子どもが多くいます。

文部科学省の調べでは立ち幅跳び記録1983年に男子160cm、女子153cmだったのに対し、2006年の調査では男子の記録は150cmを下

回りました。昔であれば日常の生活の中で自然に身につけていたはずの動きが、今は外遊び時間の減少などによって獲得できていないこと等が原因の一つと考えられています。「知的には問題がない」にも関わらず、運動能力が著しく低く、全体の能力がアンバランスな子どもたちです。そして、それは「運動や体育的な技能」のみにとどまらず、「行動や基礎学力、果ては社会性全般」にまで及んでいます。ちなみに、文部科学省が2002年におこなった調査では、通常の学級に在籍する特別な配慮を要する子どもが一クラス当たり6.3パーセント在籍しているという結果が出ています。

二. グレーゾーンの子どもたち

現在、子どもたちの身体↓感覚に異変がおきているといっても過言ではありません。ただし、ここで言う感覚とは、視覚や聴覚といった「意識しやすい感覚」ではなく、「ほとんど無意識に使っている感覚」が大切なのです。具体的には「触覚」「前庭覚」「固有覚」

①触覚…いわゆる皮膚感覚のこと。対人関係、共感的な感覚、社会性を育てるのに非常に重要。正常に機能しないことで自傷に陥りやすい、指や手しやぶりが生じやすい、手元がしつかりと見られない、手先が不器用、模倣が苦手になるなどの問題が生じる。

②前庭覚…いわゆるバランス感覚のこと。姿勢を保持するのに重要。だらしない態度になる、多動になる、つま先立ち歩きをしてしまう、身体をゆすつていることが多い、板書を写すことが困難、キャッチボールが下手、車のタイヤやプロペラの回転にはまりやすい、揺れる場所や不安定な場所を怖がる、不慣れなことや姿勢を怖がるなどの問題が生じる。

③固有覚…関節や筋肉からの情報に関わっている。動作ががさつになる、力加減が出来なくなる、手先が不器用になる、模倣が下手・苦手になるなどの問題が生じる。

この問題に分けることができます。こういった感覚が活性化されないことよって「ボディイメージ」の未発達により生じる課題を抱える子どもが増加傾向にあります。基本的に知的な遅れがないか、あってもごく軽

度であり、時に高いIQを示すこともある子どもたちです。

しかし、「ボディイメージ」の未発達などにより、「適応能力」の障害があるために誤解されやすいのです。適応能力とは、「その時・その場・その状況」に合わせて「考えを順序立て整理したり、動作・行動・態度などをコントロール」したりする総合的な能力を指します。具体的には、意図理解力や自己表現力に関わる「意思疎通面」、注意力や問題解決能力などに関わる「社会行動面」、読み書きや計算や思考能力に関わる「基礎学力面」、全身運動や手先の巧緻動作に関わる「運動調整面」などが挙げられます。

グレーゾーンの子どもたちを含め、今の子どもたちの状態を理解する上で大切なことは、ボディイメージなど感覚と運動の協応・統合に問題を抱えているケースが増えていると認識することです。

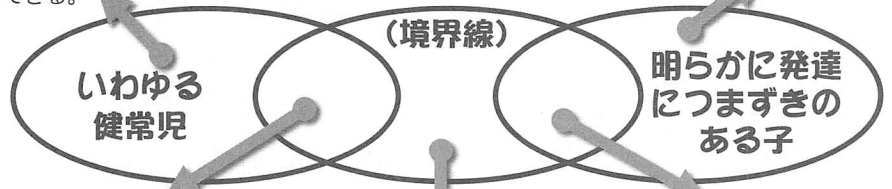
三. 「ボディイメージ」とは

ここで言う「ボディイメージ」とは、視覚的な映像ではなく、もつと基礎的で「生理的な実感」のことです。複数の感覚情報が統合されて、自分の体に対する実感が発達していくことを「ボディイメージの形成」といいます。具体的な「ボディイメージ」の機能は次の通りです。

エリア0: 健常の子どもたち。従来の保育・教育スタイルでいろいろなことを身につけることができる。

グレーゾーン

エリア4: 脳性麻痺やダウン症、自閉症知的発達障害、広汎性発達障害などといった診断名がある。



エリア1: 支援が必要だが、個性の範囲内と考えることもできる。

エリア2: 軽度発達障害の疑いがあり、診断名が見つかる場合がある。

エリア3: アスペルガー症候群、注意欠陥/多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD)、発達性協調運動障害等、軽度発達障害の診断名が見つかる。通級に通う場合が多い。

- ① 触覚という感覚情報↓ 身体の輪郭、位置、サイズの情報源
 - ② 前庭覚という感覚情報↓ 姿勢 (軸)、重力、加速度の情報源
 - ③ 固有覚という感覚情報↓ 肢位、動作状態、力加減の情報源
- この3つが統合されて正しく機能している
- 自分の体や手足の輪郭、位置関係

- 自分が分かる。
- 自分の体や手足の曲げ伸ばしの状態が分かる。
- 自分の体や手足の力の入れ加減が分かる。
- 自分の体の傾きや姿勢が分かる。
- 自分の体の動いているスピードが分かる。

四. 「ボディーイメージ」の

未発達から生じる各種の状態像

- ・ 「ボディーイメージ」がうまく発達しないことで、様々な状態が生じます。これらの状態像は、いずれも集団参加の阻害因子になる危険性があります。
- ① いわゆる「不器用」
 - ・ 「動作」イメージが把握できない。
 - ・ 動作模倣も苦手なため他者の動きをマネして新しいことにチャレンジすることが難しい。
 - ・ さらに、社会性の発達が阻害されやすくなる。
- ② 「できない」への気付きからの「苦手意識」
 - ・ 初めからやらない。
 - ・ その場から去る。
 - ・ 笑ってごまかすなどの行動が見られるようになる。
- ③ 「視空間認知」の歪みや未発達
 - ・ 「上下・左右・前後・表裏」の理解が困難になる。
 - ・ その他、「大きい・小さい」「長い・

短い」「高い・低い」「広い・狭い」「遠い・近い」「深い・浅い」などが分かりにくくなる。

- ・ 「傾斜や角度」の理解が困難。
- ※ いずれも、「自分の身体のサイズや動作イメージ」や「姿勢の調節機能、および重心軸」が基準に必要なため。

④ 「重」・「軽」の理解が困難

※ 「力の入れ加減 (固有覚) のイメージ」が基準に必要なため。

- ⑤ 「図と地の弁別」の発達の遅れや、必要な感覚情報をピックアップし、不要な感覚情報はシャットアウトする脳のはたらきが難しい。

・ 視覚的に雑多な映像が目に入ると、落ち着かなくなったり混乱したりする。

- ・ 聴覚的に雑然とした音の中にいると、落ち着かなくなる。
- ・ 図形や絵が重ね合わさって描かれている「錯綜図」が分からなくなる。

⑥ 「自我」の発達の停滞しやすさや歪みやすさ

- ・ 「身体的・生理的」自己像のことを「ボディーイメージ」と呼ぶとすると「精神的・心理的」自己像のことは「自我」と言うことができる。

・ 「不器用さ」が背景にあると、正常な自我の発達が阻害されることで「自信のなさ」が形作られやすい。

⑦ 「注意」のコントロールが困難

- ・ ボディーイメージが形成されるということは、身体 (内界) への「注意の向け方」の学習の成果ともいえる。
- ・ 視聴覚情報 (外界) への「注意の向け方」の学習の基礎になるため。

⑧ 「衝動性」(＝自分の意志でコントロールできない言動) の抑えにくさ

- ・ 「ボディーイメージ」は、「コントロール可能な自己像」の基礎。

・ 衝動性が抑えられないことで「動作のフライング」や「言葉のフライング」がおきる。

五. ボディーイメージを育てるために

1 「感覚」プログラム

- ① タッチングによって自分の体の隅々の部位に、注意・関心を向ける練習をします。スポンジなどを使い、体の各部位に刺激を与えて意識を促します。

② 体の様々な部位 (おでこ・頬・腕・背中・胸からお腹・太もも・ふくらはぎ等々) に描かれた図形 (○・△・×) や文字 (数字の 1・2・3 : / ひらがな・カタカナ等々) を、見ないで当てます。

③ ストレッチによって身体各部位の関節可動域とストレッチ感覚に注意・関心を向けさせます。これは、全身の「固有覚」刺激に関心を向けていく取り組みとして意味があります。

④日頃使っている以上に、平衡感覚を使います。激しく揺れる(前後)ブランコ、激しく揺れる(上下)トランポリン、ランダムに回転する回転イス、遊園地のコーヒーカープ、勢いよく滑る滑り台、芝ゾリ等

2 「運動」プログラム

①基本動作としての「またぐ」「くぐる」「よじ登る」には、「フィールド・アスレチック」様の運動経験等が有効です。これは車の運転に例えれば「オフロード運転」に該当する身体運動です。

②普段、使い慣れていない肢位や動きのために、「逆立ち」や「仰向け四這い」あそび等を行います。「ツイスターゲーム」等も有効です。

③重力に逆らって、手足・体を屈曲させる姿勢としては、「しがみつき」姿勢や「抗重力屈曲活動」が挙げられます。

根本的なボディイメージの改善のためには、3年～5年程度の長い時間が必要です。しかし、既に身につけている力を活かし、組み合わせることで子どもの自信をもたせることはできます。例えば、「跳び箱」で「お尻が引つかかってしまう」という課題を改善したい場合①「手で跳び箱をはじけない」②「お尻をスウィングするパワーがない」というように問題を分析できます。そして、子どもが分かる範囲で

ポイントを絞ってアドバイスをし、練習することで、現在もっている力を活かした問題解決が図れるのです。大切なことは、やらされたのではなく、自分で選んで自分で決めたことに対する成功体験であり、これが達成感や自己有能感につながります。

六、自己有能感

私たち専門家の目的は、思春期まで

に「自己有能感」を育てることと考えます。一般的に、子どもに「自信をもたせる事が大切」と言われていますが、「○○君は、××がクラスで一番!」というように表現すると、自信と一絡に「優越感」も育てている場合があります。「優越感」も「劣等感」も根元は同じなので、簡単に逆転してしまいうやすいのです。他人との比較ではなく、私は「私」として価値がある、絶対値としての「自己有能感」＝自分を肯定的に受け止め、自分を「励まし」、ほめる心のはたらきを育てることが大切です。特に結果を受けて「ほめる」ということだけではなく、努力している経過を「励ます」ことが重要です。

「自己有能感」が低い、または希薄な場合、心のエネルギーを自己統制できなくなりやすくなります。とりわけ思春期は深刻です。「どうせオレなんか…」という思いは、内に向かうと「不登校」「引きこもり」に傾く心の土壌となり

ます。反対に外に向かうと、「キレル」「自暴自棄」に傾く心の土壌となります。自己否定は究極の形をとると「自殺」や昨今の「無差別殺人」という事態を招きかねません。

自己有能感が育つための5つの条件を以下に挙げます。

①「自分自身の励まし方」を学ばため、幼少期からの「励まされる経験(学習)」

②自分の「存在」を「無条件で受け止めてくれる他者」の存在

③幼少期からの興味・関心・好奇心「活動意欲」に基づく自分で選び自分で決める体験「自己選択・自己決定」の蓄積

「活動意欲」を無視した実践や「自己選択・自己決定」が保障されないところで積み上がった体験は、自己有能感につながりにくいので、子どもの主体性が大切です。

④「成功体験(＝事実)」と「達成感(＝心の世界)」

成功体験につながるためには、失敗なく上手にできるための遂行能力が必要でです。もし、「運動の不器用さ」「社会性の不器用さ」「コミュニケーションの不器用さ」「学習活動の不器用さ」があると、「失敗体験」と「不成功感」が積み重なります。周りの「不器用であることへの無理解」があると、さらに本人は辛くなります。

⑤できたことの「共有感」や「共感性」チャレンジしている(何かに取り組んでいる)こと自体への「共有体験」を意味します。この時背景に「共感性」の発達が絶対的に必要です。

発達に障害をもって生きている場合、とりわけ「感覚統合障害」の場合には、元来、「自己有能感」を低下させやすく、希薄化しやすい要素を持っています。

感覚(入力)という情報がないと、脳は運動や動作をコントロールすることが出来ません。触覚(皮膚感覚)前庭覚(バランス感覚)や固有覚(関節や筋肉からの情報)にかかわる脳の配線回路に問題があると、社会性や行動運動など様々な面で困難が生じますが、問題はそれらを「実感」や「知識」として自覚しにくいことにあります。本人としても「どうしようもない」ことに対して注意したり叱つたりすることが増えると、結果的に強制的な関わりになります。私たちは専門的に「感覚統合の障害」として理解を深めていくことが大切なのです。

〈参考文献〉

「育てにくい子にはわけがある」

大月書店

「発達障害の子の『感覚遊び』『運動遊び』

講談社

平成23年度 新設学級、再開学級、休級学級等一覧

平成23年5月20日現在

	区市町村	学校名	学級名
小学校新設	1 中央区	有馬小学校	はやぶさ学級
	2 新宿区	落合第一小学校	八千草学級
	3 墨田区	梅若小学校	コミュニケーションの教室つばさ学級
	4 世田谷区	京西小学校	おおぞら学級
	5 中野区	上高田小学校	かみたかだ通級指導学級
	6 豊島区	長崎小学校	ひまわり学級
	7 練馬区	豊玉南小学校	みなみ学級
	8 江戸川区	鹿骨東小学校	もみのき学級
	9 調布市	柏野小学校	かにやま学級
	10 小平市	小平第十五小学校	よつば学級
	11 多摩市	聖ヶ丘小学校	コミュニケーション教室つばさ

中学校新設	1 大田区	東蒲中学校	通級指導学級
	2 世田谷区	桜丘中学校	さくら学級
	3 練馬区	八坂中学校	みどり学級
	4 葛飾区	堀切中学校	堀切学級
	5 瑞穂町	瑞穂第二中学校	通級指導学級
	6 日の出町	平井中学校	通級指導学級
	7 大島町	第二中学校	未定
休級	中野区	沼袋小学校	のびのび教室

平成22年度 決算報告

(単位：円)

1	収入	2,028,416	
2	支出	1,705,226	
3	差引残高	323,190	次年度へ繰越

(収入内訳)

款	項	項目	予算額	決算額
1	1	会費	1,566,000	1,544,400
2	1	繰越金	483,816	483,816
3	1	利息	160	200
合計			2,049,976	2,028,416

(支出内訳)

款	項	項目	予算額	決算額	増減	備考
1	運	営費	202,100	203,310	-1,210	
	1	事務費	200,000	203,310	-3,310	事務用品、送料他
	2	会議費	2,100	0	2,100	総会、役員会
2	事	業費	1,480,000	1,491,796	-11,796	
	1	調査対策費	30,000	32,844	-2,844	要望書他
	2	広報費	350,000	294,018	55,982	会報印刷費
	3	設置校費	300,000	406,432	-106,432	担任会、夏季研修会
	4	特別研究費	300,000	188,412	111,588	研修会、会場費他
	5	研究会費	500,000	570,090	-70,090	講師謝礼他
3	予	備費	367,876	10,120	357,756	
		特別研究部	100,000	180,000	-80,000	定期総会講演
		設置校部	400,000	390,090	9,910	分科会・講演会
合計			2,049,976	1,705,226	344,750	

平成23年度 予算 (案)

(単位：円)

1	収入	2,167,750	
2	支出	2,167,750	
3	差引残高	0	

(収入内訳)

款	項	項目	予算額	摘要
1	1	会費	1,544,400	各区市長村分担金(1校900円)
2	1	繰越金	323,190	
3	1	助成費	300,000	東京都教育研究普及事業の研究推進団体として
4	1	利息	160	
合計			2,167,750	

(支出内訳)

款	項	項目	予算額	摘要
1	運	営費	229,100	
	1	事務費	227,000	事務用品、送料他
	2	会議費	2,100	総会、役員会
2	事	業費	1,695,000	
	1	調査対策費	35,000	要望書、調査、研究会他
	2	広報費	350,000	会報印刷費
	3	設置校費	410,000	担任会、夏季研修会、分科会報告
	4	特別研究費	300,000	研修会、会場費他
	5	研究会費	600,000	講師謝礼他
3	予	備費	243,650	
		特別研究部	200,000	定期総会講演他
		設置校部	400,000	分科会・講演会
合計			2,167,750	東京自閉症センター年会費10000円・ノートパソコン2台

平成23年3月31日

東京都立学校情緒障害教育研究会 会長 小川 深雪 印

副会長(会計) 廣瀬 弘子 印

会計 東 夕起子 印

平成23年3月31日

監査の結果、正確であることを認めます。

東京都立学校情緒障害教育研究会 監事 宮内 正秀 印

平成二十三年年度 定期総会を終えて

四月二十六日(火)大田区立嶺町小学校において、平成二十三年年度定期総会が開かれ、事業報告、決算報告、新年度役員、事業計画、予算案などが審議・承認されました。記念講演として、療育塾「ドリムタイム」主宰 木村順先生より、「体の動きと小集団指導について」という演題で、お話をいただきました。具体的な事例に基づいた、たいへん分かりやすく、かつ実践的なお話でした。

全情研東京大会に 参加と協力を

すでに何度もご案内の通り今年度七月二十八日、二十九日の二日間、第四十四回全国情緒障害教育研究協議会東京大会が開かれます。大会テーマは「自閉症スペクトラムの学校教育の明日を考える」特別支援教育時代における自閉症への生涯にわたる支援」というものです。

閉症スペクトラム」を中心に取り上げています。

講師陣は、記念講演の山崎晃資先生を始め、文部科学省の石塚謙二調査官、分科会の講師として、浜谷直人先生(首都大学東京)、立松英子先生(東京福祉大学)、宮尾益知先生(成育医療センター)、水野薫先生(SpaceNeuroPDD教育研究所)、奥住秀之先生(東京学芸大学)、鶴養美昭先生(日本女子大学)、高橋知音先生(信州大学)、斎藤宇開先生(株たすく)と、第一線で活躍されている先生方をお迎えすることができました。

平成二十三年年度 設置校部夏季集中研修会

期日 八月三日(水)～四日(木)
会場 千代田区立千代田小学校
テーマ「これからの情緒障害教育のあり方」

内容
八月三日(水)
講演会

「通常学級の学習につまずきのある子への支援」読み書き困難児の事例を通して」
講師 小林 玄先生(東京学芸大学非常勤講師・学校心理士・特別支援教育士)

八月四日(木)

- ・公開ディスカッション
- ・グループ討議
- ・実技研修会

*情緒障害学級担任向けの研修会です。参加申し込みが必要です。詳しくは、各学級あてに案内をいたしますので、ご覧下さい。

編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたらお寄せください。

〒042-1481 千代田区立千代田小学校

調布市立柏野小学校

編集・発行 広報部

印刷 ALS-1

(文責 千代田小学校 若林 浩)

なお、今年度からブロック制の名称を変更し、ABCDBロックということで統一いたしました。

今年度は、第四十四回全国情緒障害教育研究協議会全国大会を東京において都情研で主催することとなりました。全情研から、金井尚志会長や東京大会実行委員会曾我部和広委員長よりお話をいただきました。七月二十八、二十九日の両日に開催いたします。都情研の先生方にもお手伝いをいただくこととなりますので、夏に向けて、準備・ご協力をよろしくお願いいたします。

ご承知の通り、日本の情緒障害教育の歴史は、自閉症の子どもの学校教育の在り方を探求することを目的に発足した東京都公立学校情緒障害教育研究会(都情研)、全国情緒障害教育研究協議会(全情研)の活動と密接なかわりがあります。都情研の研究と実践の歴史が日本の情緒障害教育をリードし支えてきたと言っても過言ではありません。情緒障害教育にかかわる先生方は、ぜひ大会に参加し、この機会にその歴史にも触れていただきたいと思います。

新しい学習指導要領には特別な障害のある子どもたちの教育の在り方が更に問われています。今回の大会では、その中で「自

閉症スペクトラム」を中心に取り上げています。

(文責 全情研事務局長 有澤直人)